

Key
Person



木原工業(株) 代表取締役

木原 健一

仕事上の付き合いから、なかなか家に帰らない父親の姿を見て育ったため、子どものころから「職人にだけはなりたくないと思っていた」と木原社長。しかし、学業修了後、縁あって就いた仕事は土木工事会社の職人だった。その後は、友人の紹介で塗装業界へ。塗装業の面白さに自然と仕事に打ち込んでいき、独立後は社員と共に奮闘しながら、充実した日々を送っている。「経営者という立場に立って初めて、父たちの苦労や凄さが分かりました」と社長。先達らへの敬慕の念を胸に現場に臨む社長は、経営者として、また先達と同じ職人として、自身を高め続けていく。

「経営者となって初めて、その苦労を知りました。
今は、ただ父たちを尊敬しています」

確かな塗装工事で盤石な経営基盤を築き 社員が安心して働ける環境を目指す

一般建築塗装・防水工事を手掛けている「木原工業」。職人として数々の現場で腕を磨いてきた木原社長が設立した会社だ。社員たちと力を合わせて、これまで数々の困難を乗り越えてきた社長のもとを、本日はタレントの黒田アーサー氏が訪問。「社員が働きやすい環境を整え、社員に利益を還元できる会社を目指したい」と語る社長に、お話を伺った。

COMPANY PROFILE

木原工業 株式会社

茨城県常総市鴻野山 1752-2



ゲスト
黒田 アーサー

反発しながらも職人の道へ 塗装業で着実に腕を磨いていく

——まずは木原社長の歩みから。

実家が造園会社を営んでおり、曾祖父、祖父、父と三代にわたって庭師をしていました。ただ、時代の流れから、庭師を必要とするほどの庭を持つお宅が減ってきており、今後は造園業で食べていくのは難しいだろうと思っていたため、子どものころから家業は継がないと決めていたのです。また、仕事上の付き合いなどがあって、なかなか家に帰ってこれなかった父の姿を見ていましたから、絶対に職人にはなりたくないと思っていたんです。ですが、実家があまり裕福では

なかったため、学業修了後は進学せず働いて家計を助けることに。特に学歴が求められず、高い収入が得られる仕事として土木工事会社に入社し、1年ほど働きました。業種は違えど、結局は父たちと同じ職人になっていますから、やはり職人という仕事にご縁があったのかもしれないですね。

——職人の道を歩み始めたということで、お父様も嬉しかったでしょうね。それからどんな経緯で現在のお仕事を？

その後、友人に紹介されたのが、塗装会社だったんです。それで3社ほど渡り歩きながら6年ほど働き、塗装の技術を磨きました。実は当時、一度塗装業界から離れて、別の業界へ移ったこともある

んですよ。ですが、塗装をしている現場を見ていると、「やっぱり塗装をやりたいなあ」という思いが湧いてきて、辞めてから1週間ほどで、以前働いていた塗装会社へ戻らせていただいたんです。ありがたいことに親方も快く迎え入れて下さいました。

——塗装業がとても好きなのですね。

ええ。とても自分に合っていると思います。「一つのことをできないようなら何をやってもだめだ」と思い、塗装業界で食べていこうと決意したのが21歳の時でした。そして職人として働くからには、絶対に独立して、しっかりと稼いでやると決め、じっくりと腕を磨いてきたのです。



「木原社長。21歳で塗装業で食べていくと覚悟を決めたことについて、「若いころから仕事への責任と自覚を持っておられたんですね」とゲストの黒田アーサー氏が言う。社長は苦笑しながら、「それを気づかせてくれたのは自分を育てて下さった親方なんです」と語った。社長が初めて塗装業の親方に弟子入りしたのは18歳。遊びたい盛りの若者の例に漏れず、社長も昼は仕事、夜は遊びに行くという生活を送っていたそう。そのため翌日は早く起きられずに、「明日は仕事を休みます」と親方に宣言。すると親方は、ただ「そうか」と社長の甘えを受け止め、それでも見捨てずに、じっくりと育ててくれたという。そんな親方の器の大きさに気づいたのは、社長が別の塗装会社に移ったころ。恩義に報いられなかった後悔から、社長は今でも社員たちにこの体験を語り、反面教師にするように話しているそうだ。そうして現在、社長は周囲の方への感謝の気持ちで大切に仕事に励んでいる。その丁寧な仕事ぶりは、多くの顧客の信頼を集めている。

Column

は妻も手伝ってくれており、皆の協力があつたからこそ、ここまで続けることができたのだと思います。

——これまで様々な苦労があつたと思いますが、諦めずに続けてこられた原動力となつたのは何だとお考えですか。

始めたからには会社を潰すわけにはいかないという私のプライドですね。それから、社員や家族の生活を守っていかなくてはならないという使命感。経営者となって初めて、父たちの苦勞がわかりましたから、今では素直に尊敬しています。

——責任ある立場となり、人間的にとでも大きく成長されたことが窺えます。お話は尽きませんが、最後に今後の目標をお聞かせ下さい。

現在、社員は3名で、人手が足りない時などは協力会社をお願いしている状態ですから、会社を大きくしたいという気持ちはあります。ただ、規模を大きくすれば、人手が必要になります。ですが、人を雇うために資金が必要になるなど、リスクもありますから、社員や家族を守るためにも慎重にいきたい。今は社員に無理をしてもらっていませんし、まずは働きやすい環境を整えて、ゆとりが出てきたら社員にはしっかりと休んでもらいたいですね。そして待遇を上げるなど、社員に利益を還元できる会社づくりをしていきたいと思っています。

——私も応援しています！

(取材／2017年8月)



代表取締役
一級塗装技能士
増改築相談員
木原 健一

茨城県常総市出身。学業修了後、土木工事会社就職し、1年ほど現場経験を積んだ。その後、友人に紹介され、塗装会社に入社。一度は業界を離れるも再び戻り、腕を磨いた後、後輩2名を連れて独立を果たした。現在は一般建築塗装・防水工事を手掛けている。

周囲への感謝の気持ちを忘れず邁進 社員が働きやすい環境を目指す

——独立には何かきっかけがあつたのでしょうか。

前社の上層部が分裂してしまったんです。それで、このままでは続けられないと思い、後輩を2人連れて独立しました。とはいえ、私が独立できたのは、これまで私を見捨てずに育てて下さった親方たちのお陰です。私は大変親方に恵まれていましてね。特に最初にお世話になった親方には、とても良くしていただきました。親方たちには本当に感謝してもしきれません。

——実際に独立されてみて、いかがでしたか。

やはり大変でしたね。当初は資金もなく、ボロボロの軽トラック一台だけでのスタート。ですが、勢いだけはありましたし、私には社員がいました。その時、社員たちが必死になって頑張ってくれたので、何とか苦境を乗り越えることができたのです。そうして一般建築塗装・防水工事などを続け、2015年ごろからようやく事業が軌道に乗り始めました。今

After the Interview

「スタッフさんと共に力を合わせ、会社を成長させてこられた木原社長。『これまで諦めずに続けてこられたのは、私を支えてくれた皆の協力と、会社を潰すわけにはいかないというプライドと使命感があつたからです』という言葉がとても印象的でした。それほど関わる方への感謝の心を胸に歩み続ける社長だからこそ、周囲の方々も社長を支えたいと思われるのでしょう。ぜひ社長には今後も、人とのつながりを大切にしながら、歩んでいただきたいと思います」 黒田 アーサー・談